





Prologue



は
しょうがないなあ
覚悟を
決めるとしますか



ったく
こっちは
丸腰だつてのに
容赦ないんだから



っ痛っーっ

丸腰……？



こんなことになるなら
順平の忠告を
もっと真刻に
聞いておくんだったかな

って今更
言うことじゃないけど



ううん…ただ一つ
けれど
それだけしかない
武器はある



はあ

己の精神の仮面
ペルソナ…

集中しろ
私…

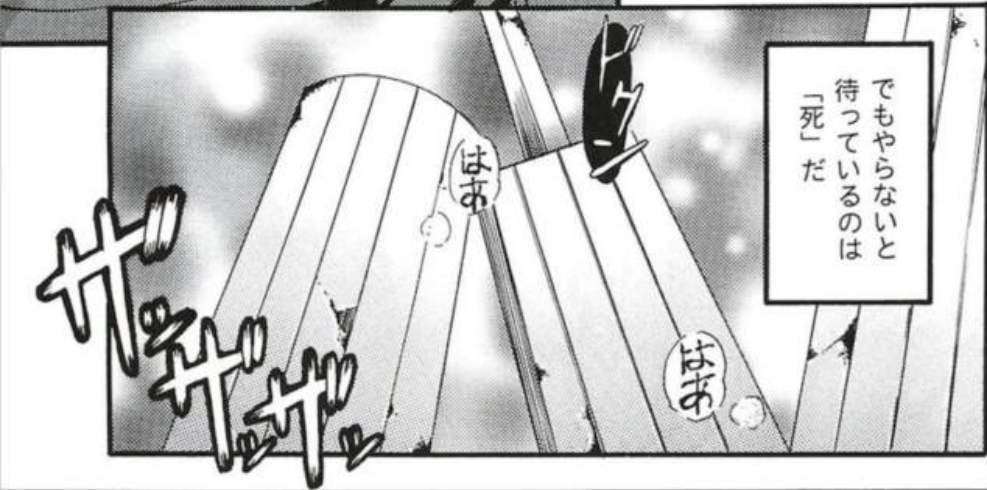
はあ
召喚器は
あくまでも
きつかけに
すぎない

でもこの状況
この精神状態で
出来るのか？

はあ



怖い



でもやらないと
待っているのは
「死」だ



死んでしまったら
もう...
会えなくなってしまう

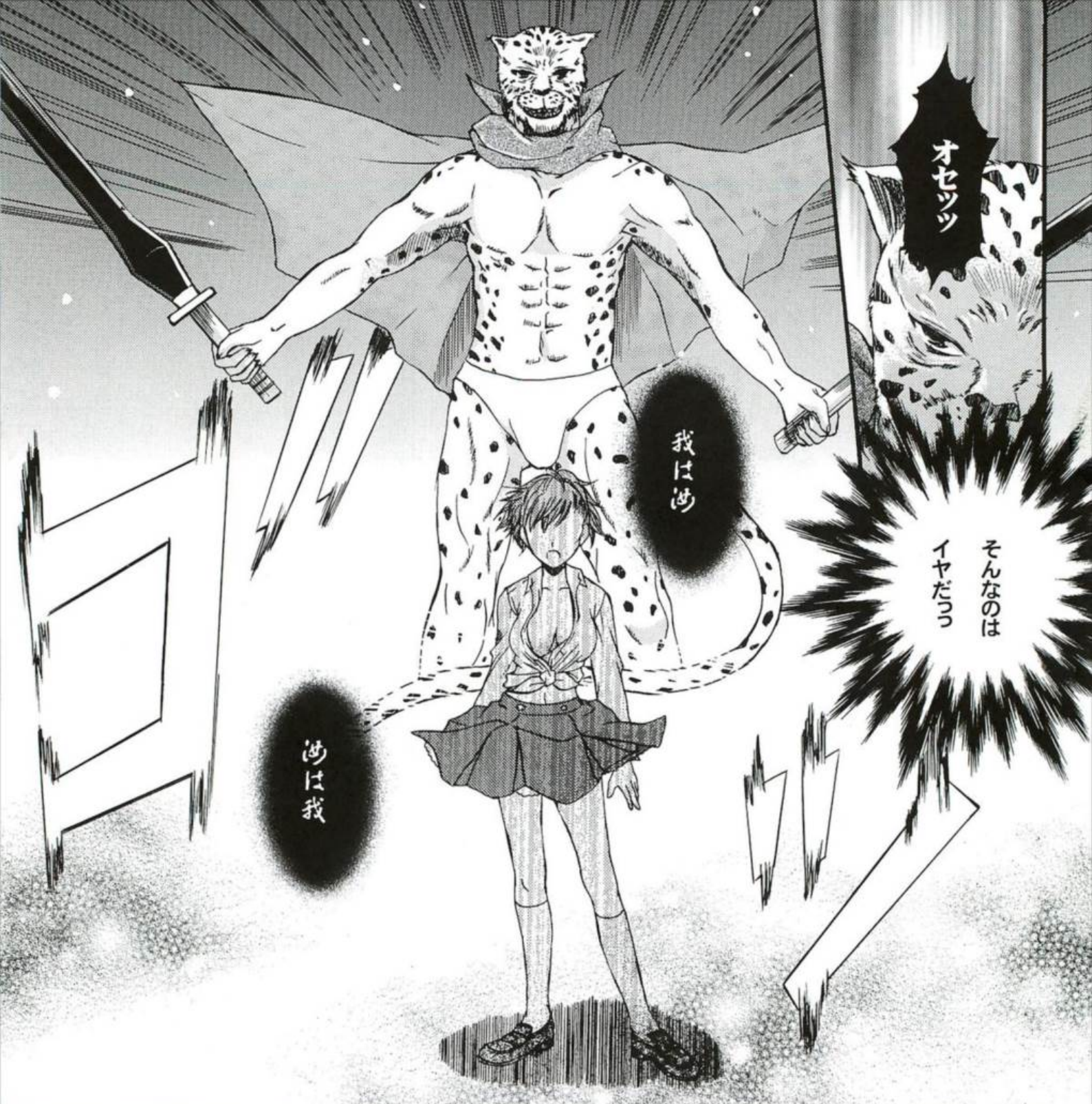


もしそんなことになったら



死ぬ...?
私がここで?





オセツ

我はめ

めは我

そんなのは
イヤだっ



マハラギオン

キ



よかつたーっ

へな

何とか呼び出せた…



よー

よー

そう…少しずつ私は変わっているのだから
こんなことは
以前の私ならば思わなかった



つとづつしている
時間はないか

少しでも
安全な場所へ
移動しておかないと

びん

びん



でもまあ…
服があるだけ
マシか

下がスースーするし
肌も心なしか
べたついていて
気持ち悪い…

それにしても…



心配してごめね

…皆…きつと



何があったかなんて
丸わかりじゃない

せめて…



はは…こんな格好

男達中には
見せたくないなあ…



せめて
真田先輩が
来ないといいんだけど…

私は確かに変わった
それが果たして
私にとって
良いことなのか
悪いことなのか
ただ…
ずっとこのままでは
居られない事だけは
分かっている

そりゃ…また何は始まってたのらなら
私にとっての何かは
これから始まるのだから

女主人公の名前とか登場人物の紹介

一応、お約束と言うことで。だって世の中で見ればみるほど「ハム子」「ハム子」って…あんたハムスターとかじゃないんだから…。まあ、単純に「私が描く気力を無くす」という理由なので皆様の頭の中で「自分がつけたであろう名前」に変換してお読みくだされば幸いです。



女主人公 (仮名：月森 日奈(つきもり ひな))

■ “P3P” から追加要素の女主人公。いつもベルソナシリーズは主人公が男でも「池田秀子 (自PN)」でやっていたのですが、徐々に失敗したと思ったのと、同人誌を作るにあたり、色々調べてみたが、「月光ルナ子 (ファミ通)」や「ハム子」とかはあんまりなので、考えてつけました。公式に発表が出るまで、うちの本ではこれで通させていただきますので、ご理解願います。ちなみに、ゲームの展開次第では高3と小5に修羅場を演じさせるような魔性の女になります (笑)

真田 明彦 (さなだ あきひこ)



■ “P3” では、空気のような存在 (いや、私は好きでしたが) だった真田先輩も“FES”と“P3P”とで株も大幅にUP! という訳で、うちのサークルでは、真田×女主人公を大PUSHさせていただきます。つうか、嫌いな人はそもそもこの本を手にとってすらいないであろうかと (笑) 他のキャラよりも描き易いと言うだけでなく、絡ませ易いとか単純に私の好みだからとか色々 (笑) 理由はありますが、「一番、ラブラブになりそう (つうか、荒垣だと既に結婚生活まで容易に想像できそうなので除外)」というのが本音。



Introduction

キミに砕くごころ

◆こんにちは、出す出す詐欺の池田秀子です。つうか、世間では、そろそろ“P3P”を乗り越えて、“P5”だというのに…まだ、真田×ハムです。本っ当にお待たせして申し訳ないです。その間に世間は、非常に大変なことになってしまいました。だからこそ、出来る範囲で何か日常を思い出させる物をとか高尚なことはあまり言えないのですが、幸いアナログ原稿描きで、電力をあまり食わない描き方ということもあり、少しでも楽しみにしてくれる方が居るといいなあと思いつつ、踏ん張ってみました。が…内容は、本当に単純に「ストーリーをなぞって、その中で淡い恋心を描く」などと言う物ではなく、「選択肢でどうにでも関係や発生時期が変わるといふ、ストーリーの穴を突いて妄想を全開してみた」という代物になっています。おかしいなあ…この話を思いついたのは、某さんと「くつつくまでのドキドキ感を楽しみたいよね」という話をしていた時だったはずなんです…。しかも、コンテを切るのが遅くて、話詰め込みすぎだし…108頁もあるのに切っている最中に足りなくなってしまう、「本来、後書きと次回予告で、取ってあった2頁まで漫画に費やす」という始末。どんだけ、真田×ハム好きなんだ…私。そういう感じの本ですが、途中の内容は人を選ぶようになっていてスママセン。この辺の時系列や補足は、おまけ本にて書く予定なので、どうにも納得いかない方はそちらを見てくれると助かります。ただ、時間をかけただけに個人的にはかなり好きな部類の話なので、感想とか頂けると非常に喜びます。

◆今後の活動予定は…冬コミまで“P3P”で申込済。冬コミでは、色んなところに描いたP3Pの原稿とかをまとめたカップリング色々な逆ハーレム総集編 (書き下ろし20頁あり) 本を出したい…。



Caution

この本は「池田秀子の妄想」を元に制作されたものです。ゲーム内容とは一部かなりかけ離れているのでご注意ください。

※ネ夕ぼももあるよ!

■発行日…2012.09.30発行 ■発行元…たいやきやけた ■印刷…大陽出版(株)様

■発行責任者…池田秀子 ■連絡先…shuko2@cronos.ocn.ne.jp

■web…<http://taiyaki.yaketa.org>

※この本を18歳未満の方に貸与・閲覧させることはお止め下さい。又、本書の内容を無断で転載・複製・web等にアップロードすることを禁じます。





伊織と
付き合っているという話

またまたー
とぼけちゃって

噂？



まあ
月森さんの噂は
聞いているけどね



何
噂
和

何故って…
その方が
盛り上がるからに
決まっているでしょうが



良く
一緒に帰っているし
つるんでいるじゃない

何でって

はあ？ 順平と私がっ？

何でそんな話がつっ



絶対
付き合っているって
アヤセ達が
言っているよ

アヤセ？

ほらポニテと
ロンゲの二人組

ひよっとして
真田先輩の
取り巻きの子？

そうそう



…って…
小豆洗いと海牛の
あの二人か

はっ かがくう…

とは言っても
うちらは
信じちゃいないけど

ぬー

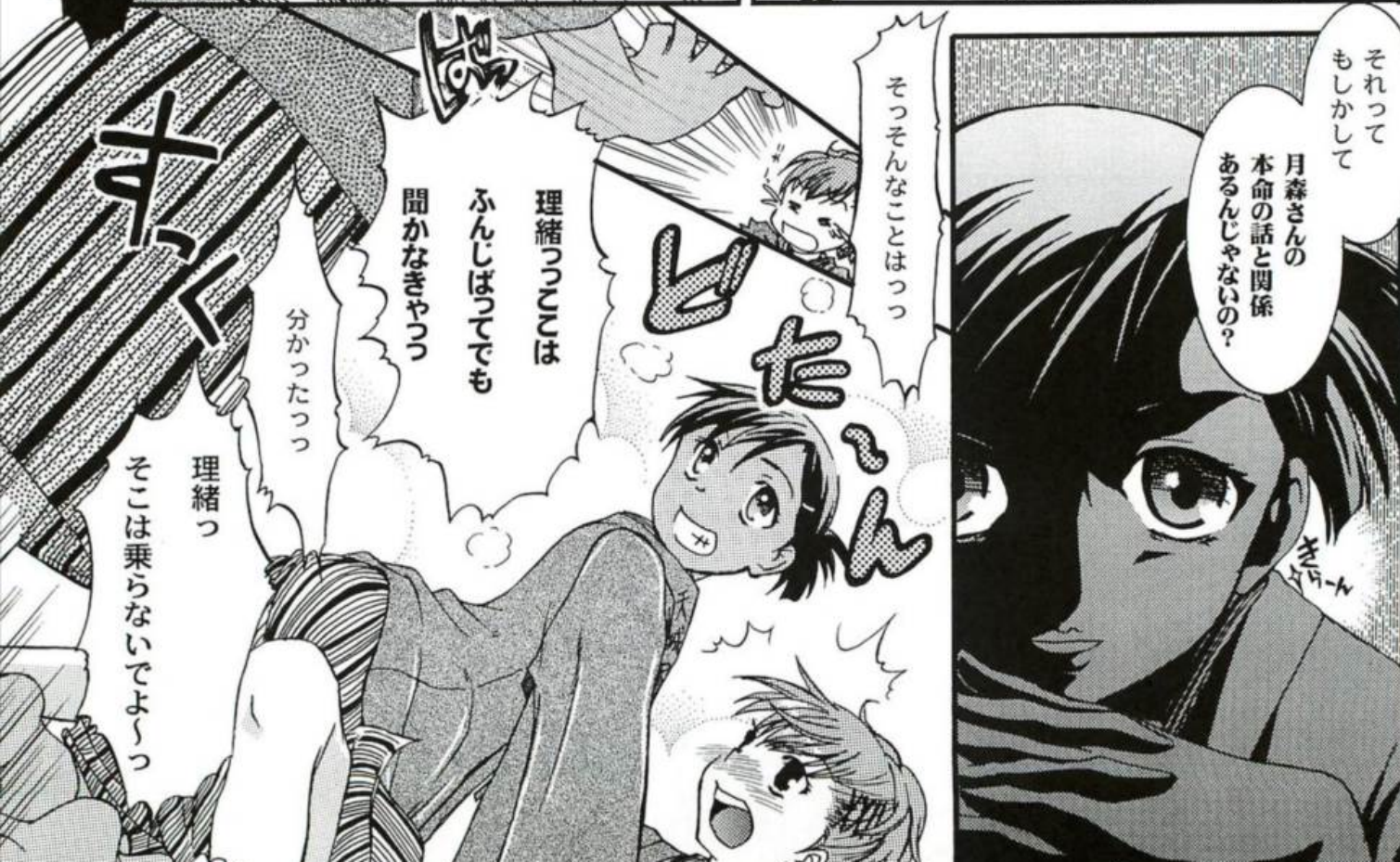


分かったって
何のこと?

とにかく
今ので色々
分かったから
この話は
これでおしまいっ

あれ
どうかしたの?

いや…何となく
その噂の裏が
見えたというか…



すっ

理緒っ…は
ふんじばっでも
聞かなきゃっ
分かったっ

そっそんなことはっ

たん

理緒っ
そこは乗らないでよっ

それって
もしかして
月森さんの
本命の話と関係
あるんじゃないの?

きん



あーっもっっ
言えはいいでしょ

私はその・・・
真田先輩が
ちょーっと
気になっている
・・・んだけど...

あー
やっぱりそうか

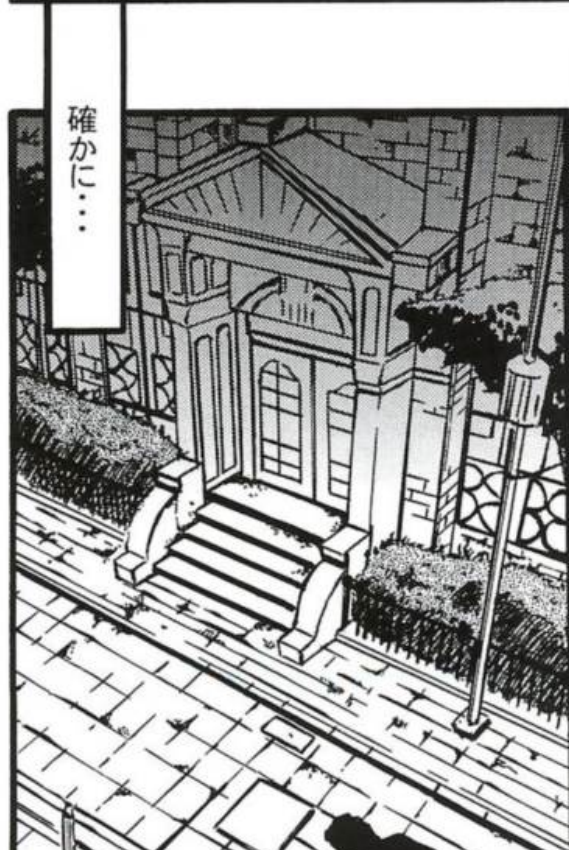


真田先輩を
好きになる気持ちは
分かるけどねー
格好良いし
頭もいいしね

いや...そんな
ただ気になるっ
だけで

別に好きとか
そう言っている
訳じゃないんだけど...

よーっ
分かった



確かに...



私たちは全力で
応援するから
頑張れっ

ガッ

ハイ...
アリガトウゴザイマス

とはいったものの
本当にまだ...
気になっているだけなんです



七月の満月時に
あんなことや
こんなことも
あったけど



平常心っ平常心っ

んっ

かあかあ

アレはあくまでも
シャドウのせいであって
先輩も私も
あの後ずっと普通だったし
そんなことなんか考えられない

…っ思う



良いところだったよ
でも疲れたかな

何て言うか
色んな意味で…

色んな意味？

ただいま
ばたん

おかえり
リーダー
どうだった？



あはは…
それはいいから
ハイお土産

おっ
悪いね
リーダー

行ってきた

一瞬

この迷いを見透かされたかと思ってしまった

考えてみれば…
満月毎にやってくる試練

それらのことを考えると
私にはそんな事を考える暇も資格もない
先輩だって同じだろう…



でも…そんな自身に
関することすらも
考えることが
出来ないのならば

あなた方は
何のために
戦うのです？



自分ら
影時間を
消してしまっ
て
本当にええんか？

何で私は……
ただシャドウと戦うために
寮に居るのだろうか？



死ぬのが怖いから……？

何かを守りたいから？

どれも違う気がする

ストレガの言葉が胸に刺さる



……奈

何のために？

日奈っ



改めて
私は何で
影時間を
消したいのかなって…

サ



講習
終わったよ

あ…うん

まだアイツらの
言ったこと
考えているの？

うん…
それもあるけど



考えてみれば

私がやらなくても
ゆかりや先輩達が
やってくれたかもしれない

なのに何で
私は自分から
動いたんだろう？

それって
今の自分を
壊されたくなかった
だけなのかもとか

今の自分？

そう…
周囲の人を
含めた…ね



私の日常を
変えようとするものが
現れて

今の私は
それがイヤだという
エゴで戦っている
のだけれど

それって
流されているのと
何が違うんだろう？

サ





私ってこんな人間だったかな？

変わろうとしない変わらぬ自分が
酷く分からず屋な気がして気持ち悪い

その理由もここに居る意味も
皆少しずつ変わっているのが分かっているのに
いつまでたっても何となくで
「ムムム」……



やばっ…
洋服のまま
寝ちゃった

それにしても



もうすぐ
新月なんだっけ

そうだっ
次の満月までに
強化計画を
考えないと…



なんでこんなに
部屋が暗いの？

…ああそっか



本当は何となく自分でも分かっている

変わらない自分
変わっていく皆

間違っているのは多分…
私の方だっつこと



変わることで今までの自分が否定されるみたいで
それが怖いだけなのだとすることも

ふあい…もひもひ

月森か？



ハイッ



今日
長鳴神社で
お祭りがあるそうなんだが
一緒に行かないか？



そうか…
じゃあ夕方に
ラウンジで
待ち合わせだ

はいッ



行きますっ



そ…
即答してしまった

あーっ
緊張したっ



夏休みに入って
あまり顔を
合わせてないとはいえ

七月八月と色々
あったせいか
どうしても
意識しちゃうや

それになんたろう
この感じ…



今日のお祭り
着たいんだけど

ゆかりが持っていたら
借りたいなって...



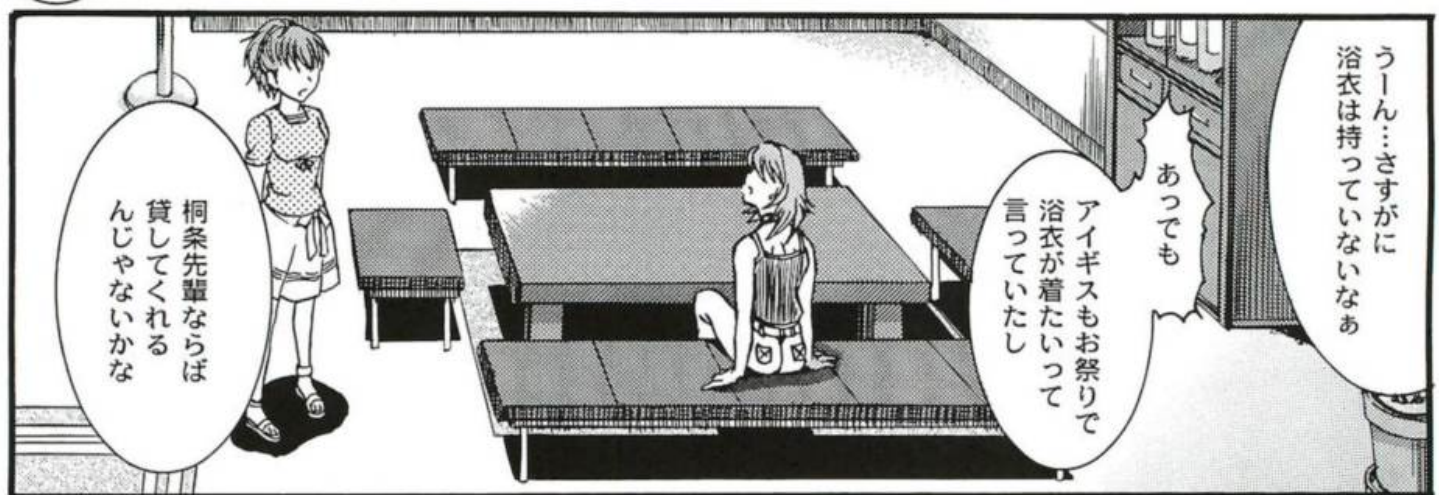
浴衣?

うん...

あっ
そうだった
浴衣っつ



先輩と話していると
なんだかよく分からない
もやもやが胸に
浮かんでくるんだよね!



うーん...さすがに
浴衣は持っていないなあ

アイギスもお祭り
で浴衣が着たいって
言っていたし

あつても

桐条先輩ならば
貸してくれる
んじゃないかな



聞いてみようよ
私も着たいしさ

浴衣?



アイギスも
そんなことを
言っていたな

特殊兵装が
どうか...

もちろん
用意できるが

わーっ
ありがとうございます

さっか
桐条先輩





今日のお祭りはどうなかと出陣のお約束をしていると見受けられますが

どなたとお約束を？

えあつしゅつ出陣？

アツアイギス何？

ほー
日奈さん

どれにしようか迷っちゃうね
これなんか良くない？
ガッ
ガッ



なににな〜
リ〜ダ〜
誰かと約束しているんだあ

聞きたいなあ
そのお相手のこと

私も知りたいな
私も知りたいです



桐条先輩も知りたいですよ〜

ああ…そうだな

何かの時の為に夜間のリーダーの行動はなるべく把握しておいた方がいいかもしれんな

ちょっと違うけど桐条先輩もああ言っていることだし吐いた方が楽になるよ〜

…真田先輩だよ…

ええーっ

いつからそんな仲に！

えっと
別に深い意味は
ないと思うんだけど
真田先輩のことだし…

あの真田先輩が
誘ってきたの？

うん…

そんなに
気がきく人だったっけ？

明彦が君を
誘うとはな…
少しは成長した
ということか

地獄の夏期講習後の
息抜きという意味では
実にベストな
お誘いだと
分析いたします

それにしても
明彦か…

君は中々
見る目がある

え…っ
桐条先輩？

それって
どういう…

そうと分かれば
思いつきり
リーダーを
粧しこませないっつ

アイギスっ
そっちを押さえてっ
了解しました

美鶴先輩に聞けなかった

真田先輩のことだから
そんなつもりは
これっぽっちも無いと
思っただけ…

今日は誘ってくれて
ありがとうございます





いや…夏期講習やら
タルタロスやらで
夏休みらしい事は
何もしてないだろうし
息抜きになればと
思ったんだが…

まあ…実際
お前はリーダーとして
良くやっていると思うよ

はあ

ほらね…やっぱり
義務感から誘ってくれたんだって
分かっていただけ—
面と向かって言われると凹むなあ

ヤゴ



ところで
先輩

何で私の方を
見ないんですか？

……お前が

そんな格好をして
いるからな

似合っていないませんか？



いやっ

そんなことはないっ

「るっ」

その…
似合っているからこそ
だな…



クスクス
先輩って
本当に
面白いですね

なっつ先輩を
からかうんじゃない

うんっ
やっぱり
天然…？



最近
調子にのって
いるよね
あの子

そうそう
真田先輩と
同じ寮だからって



真田先輩と
居るのって
月森じゃね？

あっ本当だ



おっ...
くじがあるな
引いてみるよ
俺が奢るから

ねえアレ

ゴソゴソ



そういえば
この間
あの子に関して
面白い噂を
聞いたんだけどさあ

なにに？

ホソソソ
.....

へえ



こんなにも考えが
纏まらないのは
きつ
殊更に暑いこの夏のせいだ.....

日ノ奈つち



それ使えるんじゃない？

カラゴロ





何か微妙に
腹が立つのは何故？

まあとりあえず
オメデトウ

それがさあ
名前しか
分からねーつうか

それといつも
居る場所が
分かる程度なんだけど

何それ？

そんなんで
本当に
好きって言えるの？
何もその娘のこと
分からないに
等しいの？

何が「アゲ」なの？

別に

で・・・
どんな娘なの？

なくに言ってるんだか

じゃあさ
逆に聞きたいんだけど



よく知らない
誰かを好きに
なっちゃいけないのか？

誰かを好きになるって
理屈じゃなくて
気持ちの方が
大事じゃないのか？



それで
その気持ちだけで
十分幸せになれること

今の俺は
まさに
そんな状態なんだよ
「はすやー！」

それって

理屈じゃなくて
心で感じるのが
恋って事？



順平が見つけた戦う理由

もうすぐ
満月か・・・



Act.2. 鳴かぬ蜩が身を焦がす

今までで一番暑かった夏は

私の中に問題を提起するだけして

去つていこうとしていた

まだ…

何も答えなど出ていないというのに









だから
逃げたくなる

考えることを
止めてしまう

—そんなことは

分かるんだ
僕も君と会うまでは
そうだった



君は
自分が変わることを
恐れているんだよ



君はきっと
何か大きな事を
やらなければ
ならなくて

その為に
悩んでいる位は
僕にだって分かる

だけど
もっと楽になって
他人を頼っても
いいんじゃないかと
そう思う



僕は君に
つぶれて欲しくない
ずっと前を見て
歩いていてほしい

けれど
もしそんな君が
変わってしまったら
僕はきっと受け入れる

それは君から
教わったことだから…



他人を受け入れる
度量がある君でも
変わる自分を
受け入れてしまうと
全てを失うように
怖いだろうか？

でも大丈夫
君は何も
失ったりはしない



どういたしまして

ありがとう
小田桐君





べつ別に何も
無いかなっつ

—そうか

ならいいんだ
きつと僕の
思い過ごしかも
しれない

ヤッ



変な事?

例えば痴漢とか
盗撮とか...



そう言えば
最近
君の周りで変な事は
なかったかい?

ドキッ



だが気をつけて
帰らたまえ

カ

件の教師の件といい
君は目立つからね



小田桐君も
盗撮事件を
知っているなんて
早く何とかしないと
全校に広まるのも
時間の問題だなあ

うん

それにしても

じゃあ
また明日

うん
さようなら
.....



誰ッ





ムソーツ
待ちなさいっ

絶対っ
捕まえて
止めさせてやるっ



体育倉庫



あいつのせいで
色々と面倒な事になっ
ているんだよね

今のひょっとして
例の盗撮犯？

ゴッゴッゴッ



やっど・ハア
追いついた！
いやー
日奈ちゃん
足速いねえ



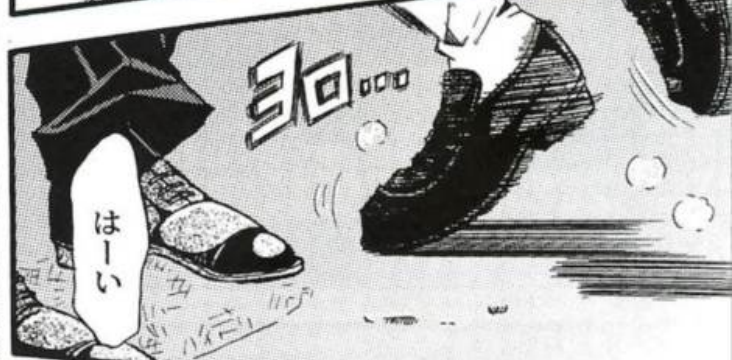
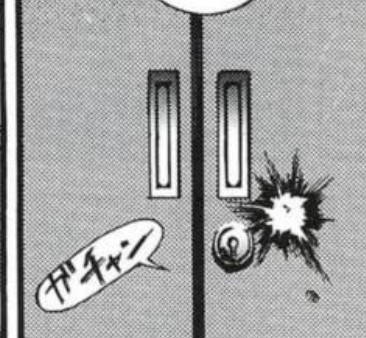
あんた
盗撮犯なんか
日奈ちゃんなんて
呼ばれる筋合いは
ないっの



それよりも
今も含めて
全部のデータを
渡してくれる？
はあ？
何言ってるの
とほけないでっ！
少なくとも
さっきの下駄箱の
写真は
あるはずでしょっ



あれ、
気が付かなかった？
後ろからずっと
付いて来ていたの



さあ

Act.3. 遠くて近きは男女の仲



リーダー？

順平君
リーダーが
何処に居るか
知らない？

いんや



一緒に夕食を
食べる約束を
していたんだけど
携帯もつながらなくて

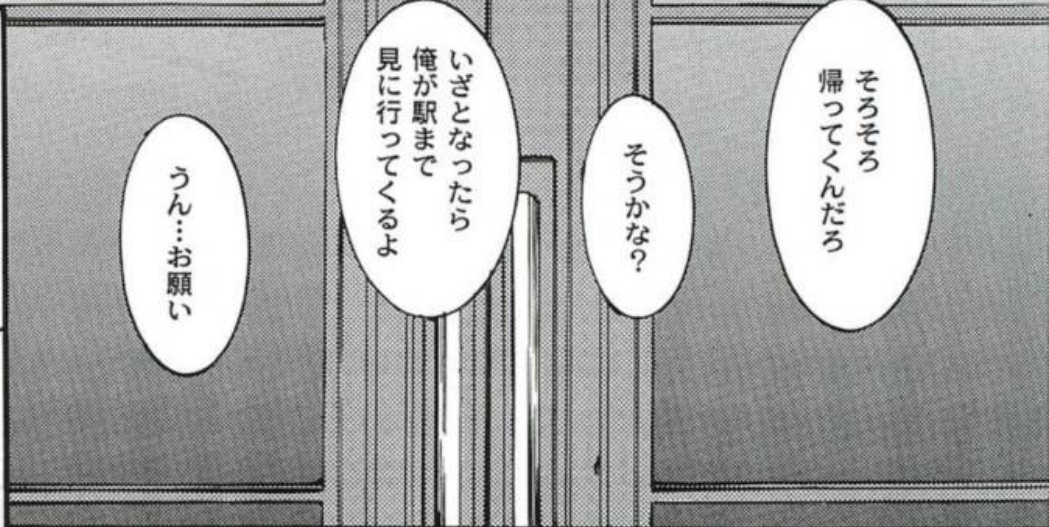
生徒会の用事で
遅くなるとは
言っていたぜ



しっかし
いい胸してるよね

これは高く
売れそうだ

うるさ



そろそろ
帰ってくださる

そうかな？

いざとなったら
俺が駅まで
見に行ってくるよ

うん…お願い



—連絡も無い
携帯も通じない…か
もう盗撮犯が
動いてるとか…
まさか…な



動くとも肌も
切れちゃうよ

4#



何でそんなこと
アンタ達に
言う必要があるのっ

それが
あるんだよね
日奈ちゃん



もう愛しの
真田先輩には
揉んでもらった？



もう
ばれちゃったから
言うけどさ

俺等
随分と君の
写真で稼がせて
もらったんだよ

そんでき
もっと過激なのは
無いかって
リクエストが
多くって

それとは別に
依頼もあったことだし



だから
快い顔を
してくれないと
困るんだよねあ

アンタ達って
サイツターっ

そんなのとっくに
知っているし



一石二鳥
ということで
君を捕まえて
みましたって感じ



じゃ日奈ちゃん
そういう訳だから

「真田先輩に
近づいていって
気を無くさせよう
ってことだしさ」

いいんじゃないね
頼みの内容も



でもちよつと
ムカついたから
予定外のこと
してもいいよね



何で…真田先輩に
近づくなつて…

そして
その表情っ
イタタキッ



ねっとりとして
舌が絡みつくのが
たまらんっつ

おーっつ
良い感じ

よろしくねっつ…

私…おかしいね…やっと——

こんな事になって初めて——心から助けを求めている
初めて…人に頼ることを考えている



くほ
やほっつ
気持ちよすぎて
もう出るっつ

はーい
グッ



ふーっ
予想以上に
気持ちよかったよ
日奈ちゃん



とっても
良い絵も撮れたし
皆も喜んでくれること
間違いなし

今…自分の心と素直に向き合えた…



でもさー

—— 逃げていた気持ち ——



もう一つの
依頼は
写真だけじゃ
弱いんだよね

やっぱり
日奈ちゃん自身が
負い目を
感じられるように
してあげないとさ



まさか…
絶対にやだっつ
そんなことになったら



先輩の前に
まっすぐ立てなく
なっていて味方っ

やっあ

ひまわり
まだ処女だった？

おーっ
想像以上に
綺麗な形と色を
してるじゃん

やっ...
はつきりと自覚したのに



私...こんなにも
真田先輩のことが
好きなんだって

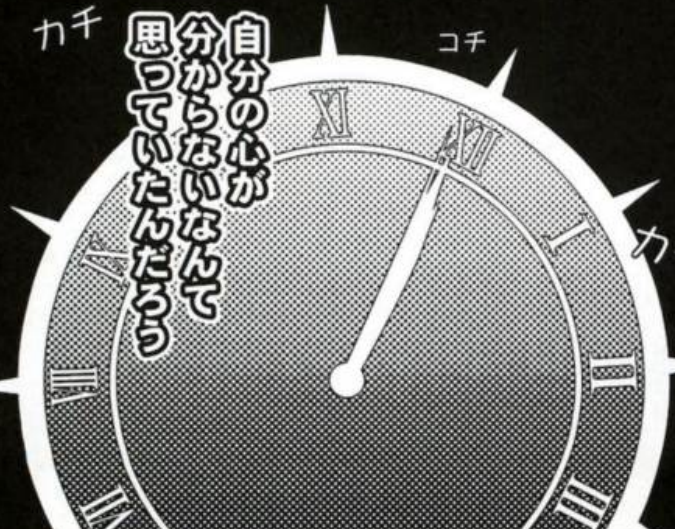
あははは
どこへ行くんだよ

逃げられないよ

馬鹿だ...私は
何でもっと早く

こんな事になる前に
伝えなかったのだから

どうして...



自分の心が
分らないなんて
思っていたんだらう



真田先輩…

リーダーの事だから
大丈夫だとは
思うんですけど

もうすぐ影時間だし
念の為
風花に探ってもらって
いるところです



そうか



どうだ…
山岸

ちよっと
待ってください

影時間との境が
ちよつど来て…



おいっ

月森がまだ

帰ってこないそうだな



いいい加減
諦めれば？

誰かつ



まさか……

え……でも
これって？

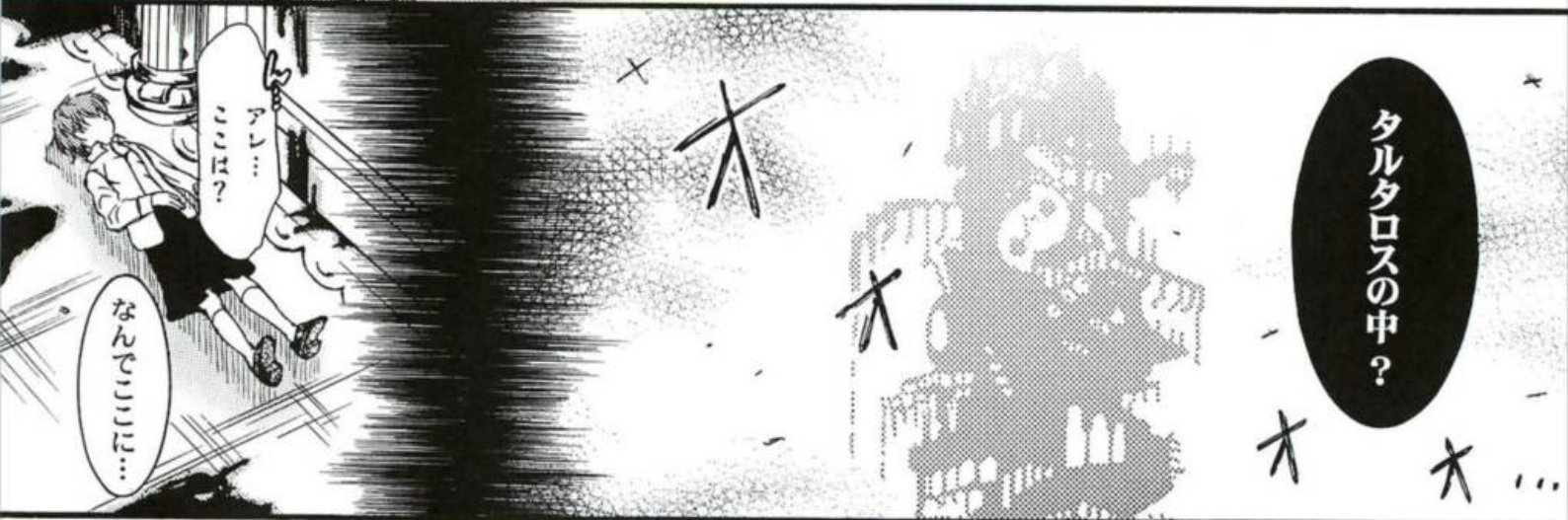


見つけたかっ
何処だ？



居たっっ

見つけましたっっ



アレ……
ここは？

なんでここに……

タルタロスの中？



そっかー
もう十二時に
なったんだ

だから適応者の
私だけが
タルタロスへ
飛ばされた

でも……

ず……ず……



ここは
どの階層なんだろう？



影時間っ！



もう見つかったっ

カッ



一体？
それとも…

倒せるか？
ううん…



とりあえず



アイツ等に
これ以上
何かされることは
避けられたけど

帰れるかな…
皆の元へ



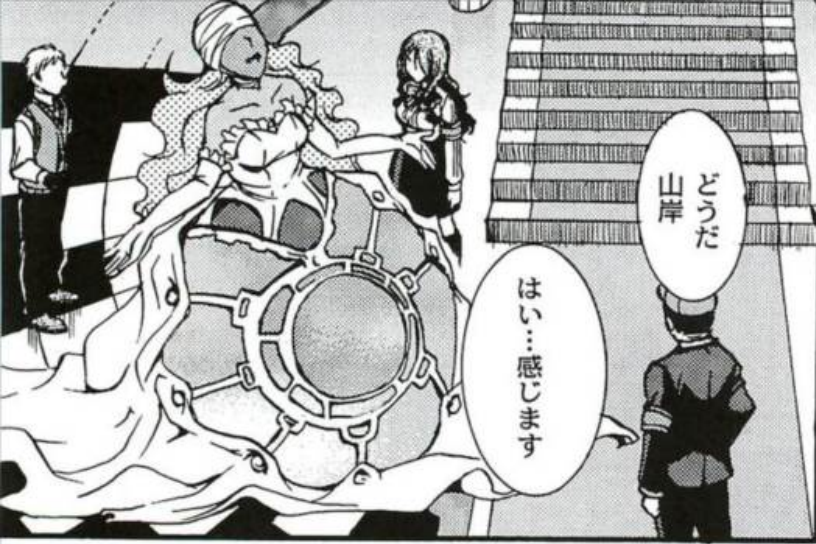
大丈夫…きっと
きつと
皆来てくれる



すっ
す
す



今とはにかく
逃げなきゃ
風花が居るから
何処に居ても
見つけてくれるはず



どうだ
山岸

はい…感じます

今はそれを
信じよう



恐らくシャドウに
追われているのだろう

まずいな



リーダーは
間違いなく
この中に居ます

でも…
移動している？



おい



こんなことになった
その理由に
心当たりが
あんだな？



あっちで
詳しいことを
聞かせろよ



あの…多分
俺等じゃなくて
女性だけの方が
いいんじゃないかなあ
なんて…



美鶴っ

万が一のことを
考えて救出は
俺と順平・シンジの
三人で行きたい

えっつ！
男達だけでツスカか？



おい美鶴
予定変更だ

月森の救出は
俺と伊織の
二人で行く

分かった
気をつけて頼む

なっ!



だから真田さんは
行かない方が
いいんじゃないかと
思うんですけど…



事情を知る奴も
少ない方がいいな



…つうワケなんすよ

アキの取り巻きと
盗撮ストーカーか…

下種なパターンも
考えられるつか



シンジっ
俺は絶対に
行くぞっ



…アキ
ちよつと来い
話がある

山岸聞こえるか
本当に
この階なのか？

はい
間違いなく
このフロアの
何処かに

あっつ
順平君っつ
そこを右に



日奈ツチっ

ヤッ



ごめん・順平
忠告を
聞いていれば
良かったよね

いいんだって
そんなことほっ



ありがとう



…順平…
来てくれたんだ



それより
怪我は無いかな？

うん…幸い
色々未遂で済んだし
シャツドウも何とか

それより
他には誰が？

俺と荒垣さんの
二人だけだ



こんなことに
なったのも
自分のせいだしね

ちよつと顔を
合わせづらかったから
ちよつと良かった



ううん



そう…
真田先輩は
来なかったんだ

わりい…その
来てもらった方が
良かったか？



伊織
見つけたか

荒垣さん

日奈っち
…お前さ
ひょっとして—

ただ…真田先輩が
来ないって事で
こんなに
ほっとしている
自分に驚いただけ



無事だったなら
それでいい

荒垣先輩
心配かけて
すみません



……



そんな事より
こんなトコから
早く引き上げるぞ

歩けるか?

平気

大丈夫か?



リーダーっ！



皆
心配かけて
ごめんね

うん

良かった
無事だったんだね



あの

桐条先輩
こんな時に
すみません

私——
学校に忘れ物
しちやっただ
取ってきたの
です

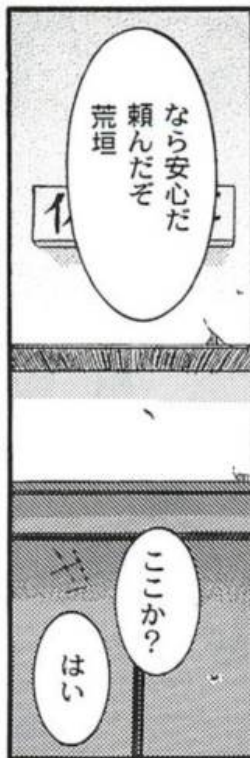


もう



おは
心配した
おは

おは
おは





分かったな

ひっ

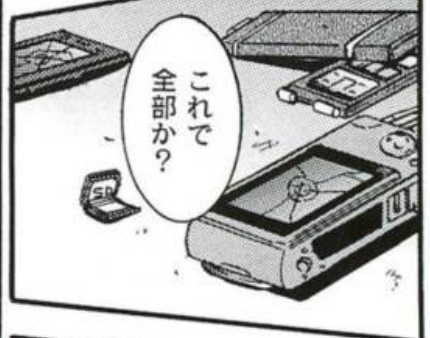
さっさと
行きやがれ

ハァハァハァ

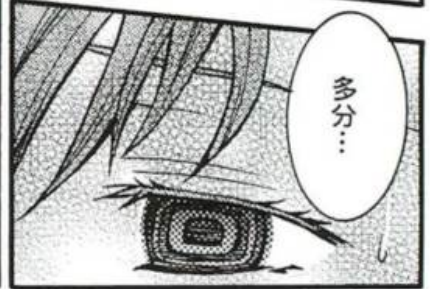


ぐんぐん

いいか
今後一切
コイツに
近づくんじゃねえ



これで
全部か?



多分...



別に礼を
言われるような
ことはしてねえ

俺っちなんか
特にね...うう

ううん
順平が居てくれて
助かったよ

荒垣先輩
順平——
本当にありがとう



...まったく
けったくそ
悪いヤツらだ

いいな
忘れちまえ

荒垣先輩...



こっちへ来な

コホホ...



おい
コーヒーを
淹れてやる



そっか
じゃおやすみ

うん
おやすみなさい



——
月森

あははは

ふん…寝めても
何も出ねえよ

相変わらず
美味しいですね



アキのせい
だってな

けど
フラッシュバックは
多少でも軽減
してやりてえ

もし…
アキの鈍さが
その原因になるなら

俺はアイツを
殴っても
今後はおめえに
近づかせねえが

今日…おめえの
身に起きたことは
忘れろと言ったが
なかなか
忘れられるもんじゃねえ
……



えっと…
そこまでして
もらわなくても
大丈夫じゃないかと



うん…



…多分

そうか…
ならいい



何も
聞かないんですね

順平も…
先輩も



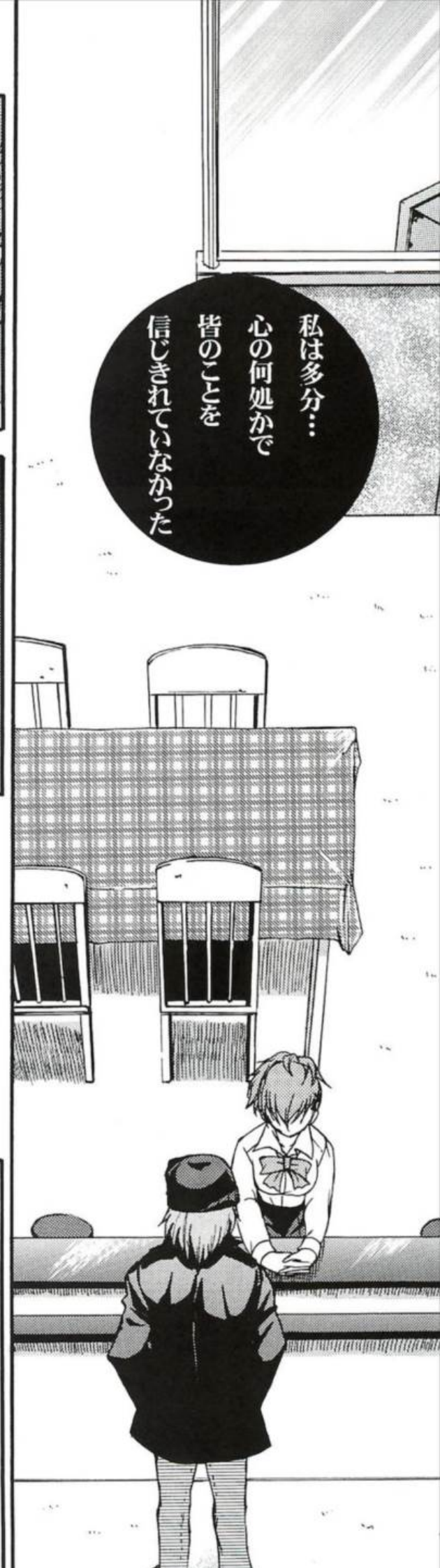
どうして…

どうして皆
そんなに
優しい…



話したきや
聞いてやる

だが
聞くことしか
できねえがな





アホか
おめえは



それとー
私がどうしようもなく
力の無い女の子で

私一人じゃ
何も出来ない
そんな存在だっことも



いったーっ

何するんですかつ

何を今更
言ってるんだ



周りを
動かしたじゃねえか



俺だつて
アキだつて
皆一人じゃ
何も出来ねえんだよ

だが
おめえは
自分一人では
何も出来なくても



実際
おめえがリーダーに
ならなかったら
シヤドウとここまで
やれなかった

少なくとも
それだけは
おめえの力だつて
ことだろ

・・・荒垣先輩
さすがにそれは
持ち上げすぎですよ



そうですか・・・
私は本当に
大バカ者かも・・・



はっ

ったく・・・
アキといい
おめえといい

俺の周りは
とんだバカもん
揃いだな



真田先輩と
同じ・・・？

ああ・・・



何を嬉しそうに
言ってるんだか

でもまあ
やっぱ
おめえは
笑っている
方がいい



そういや・・・
おめえは
本当に
アキのこと一つと
これ以上
余計な口を
挟むのは
止めておく

……？
何のことですか

何でもねえよ



ただ——
忘れんなよ
おめえの周りには
頼つていい仲間が
居るつて事は

はい



皆…皆
私を置いてく

そう言ってくれた荒垣先輩は
あれからすぐに
ストレガの凶弾に倒れ
意識不明の重体となった

多分…ううんきつと
先輩はこうなることを
知っていたのじゃう



開いてる？

頼ることを知った私が
頼る先の一人を失つて
これからどうなるのか

何だろう…
あれ？

何やってんの…私
この部屋にはもう
荒垣先輩は居ない





あ...



荒垣せんぱつ...

あああ
ガッ

私...まだ
あなたのように
強くなれません



でもいつか

残されたものが示すのは
他人のために
自分の心を砕いても
無くならない心

いつかは
私も

先輩のように
強い心で
誰かの為に
心を砕ける日が
くるのでしょうか？







それは
真田さんと
関係
あるのじゃないかっ



あゝ
お子ちゃまの勘も
中々
あなどれんなあ



じっ



最近の日奈さんは
あからさまに
真田さんの事を
避けていますよね



順平さんとお
茶化さないでください

うーん
恋の力つてのは
偉大だねえ

俺が
こいつの
お母さん



やべ・・・
気をつけんと
噂に気づかれるな



!!

そういや
天田少年は
日奈っ子の事が
好きなんだっけか



・・・

まだ少年には
分からないかも
しんねーけどよ



・・・
天田少年

色々と
聞かないでやるのも
大人ってヤツなんだよ





リーダーが
脱出ポイントを
見つけたから
帰還するって





うん
ありがとう
頼りにしているね



僕が頑張つて
あなたを守りますから



だから
元気を出してーと
言いたいの
に
言えなかった

日奈さんの表情が
あまりにも
寂しくて

僕なんか
目に入って
いないんだと…
そう分かってしまった

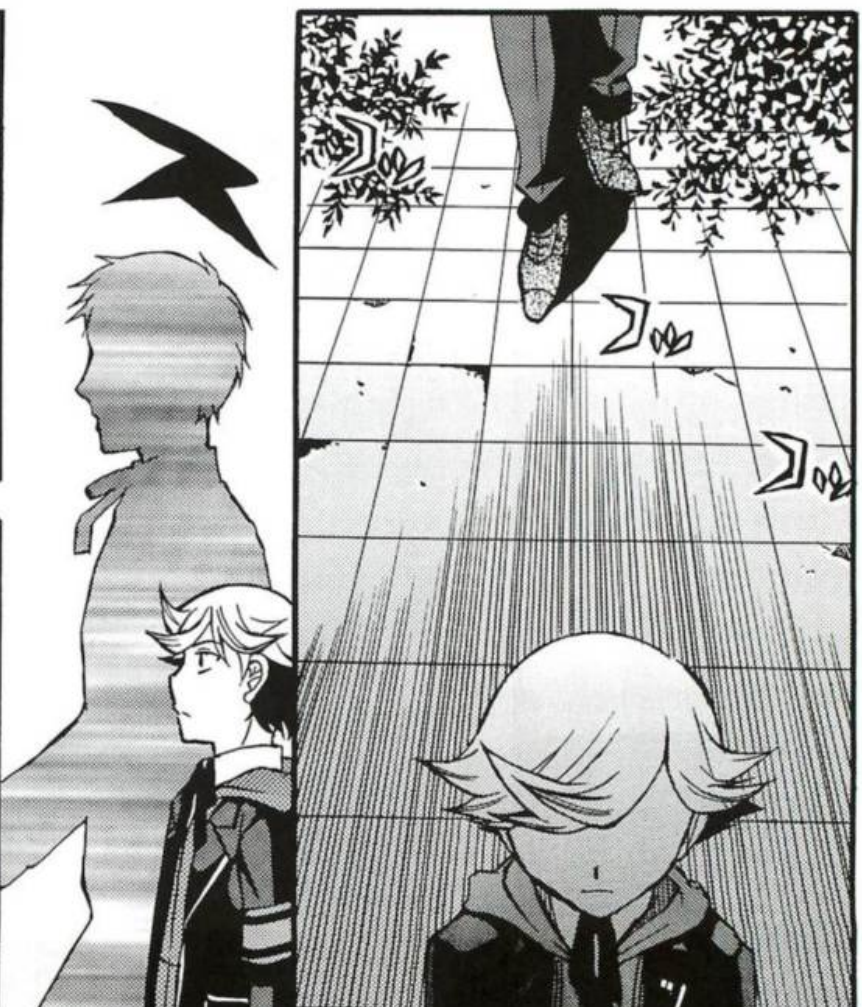
いえ…

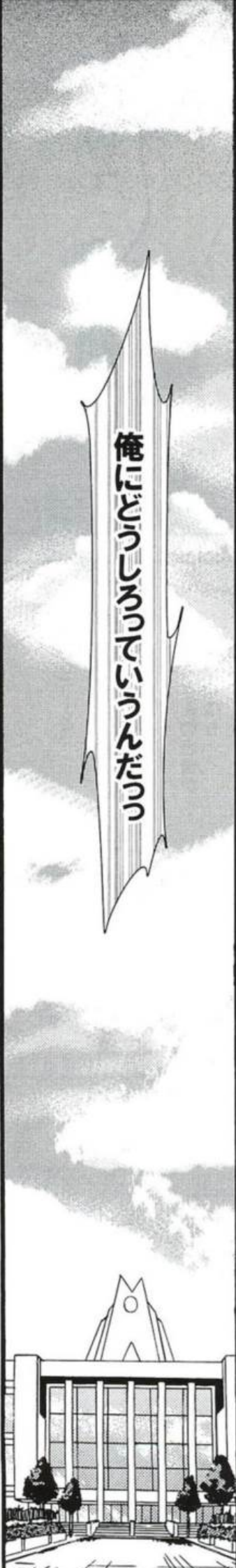


真田さんっつ



どうした
天田？





俺にどっしり立っていうんだっつ

それら全てが俺をこんなにも苛立たせて
余計に頑なにさせる

原因となる事柄が分からないから
それがアイツに対する態度に出してしまう
とんだ堂々巡りだ



それじゃっ

天田つっ

だっ



日奈さんのこと
ちゃんとして
ください



ホント
ちゃんとして
くださいよ
真田さん

順平まで...
なんのことだ?

ぬううん

さあね



たまには
自分の行動を
振返ってみて
くださいよってね

はあ?

.....

言われなくても
分かってはいるんだ



九月のあの時から
ずっと月森の
俺に対する態度が
おかしいよってかい

そのくせ

時折

綻る様な瞳で

見つめていることも

くそっ



どう考えても
避けられてるな

シンジが
ストレガの凶弾に
倒れ意識不明に



美鶴の父親は
幾月の凶弾に倒れて
帰らぬ人となった



ふう・・・
あれから
二ヶ月近く
経ったのか

送信完了しました
OK
戻る ● 決定 メニュー



いいかアキ
アイツのことを
考えるのなら
お前は行くな

あの時のシンジの言葉

だが
アイツの全てを認めて
受け入れる覚悟が
あるなら
ついてくればいい



短い間に
あまりにも重いことが
続いたから
忘れかけていた



思い出してからは
何度もその意味を
考えているが
答えはまだ出ていない





携帯
鳴りっぱなしだよ



ただ
出たくないの



知ってる



私にはその電話に
出る資格なんて
無いから

なんだそれ
どういう意味だ？

だくからああ
月森さんが
二ヶ月くらい前に
乱暴されたって話

真田先輩
知らなかったんですか

何だその話は？
何を言っているんだ
コイツ等

最近
あまり一緒に
居るところを
見かけなかったから
てつきり
知っているかと

そんな話は
俺は寮の奴らの誰にも聞いたことがない

もっと詳しいことを
知っているのか？

勿論ですよ

バカっ
何言ってる

じゃあ
先輩またっつ

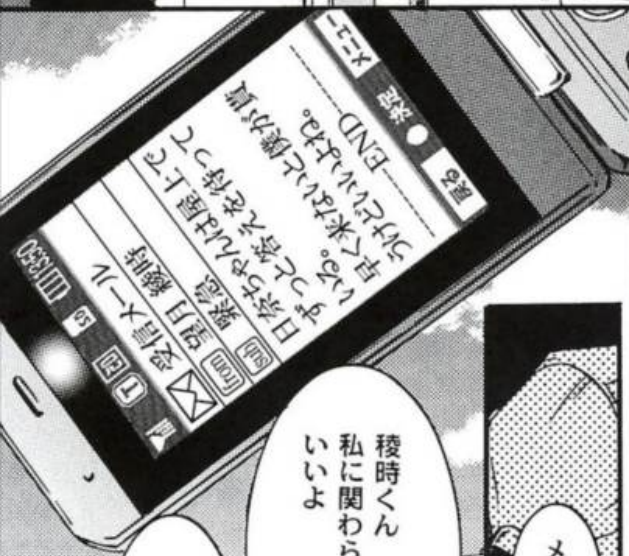
おいっ
話を聞かせろっ



メール？

後時くん
私に関わらない方が
いいよ

どうして？





前にも言ったけど
僕は君に運命を
感じているんだって

あれ
本気だったんだ…



噂—
聞いたでしょ？



だから
私・・男の人に
優しくなんて
出来ないから

噂は噂でしょ



それに—



君の運命の
相手は
残念ながら
僕じゃない
みたいだけど

でも
どうしてかな



もつとも



君が辛そうに
していると
僕も辛いんだ

そして
君が笑うと
僕も嬉しくなる

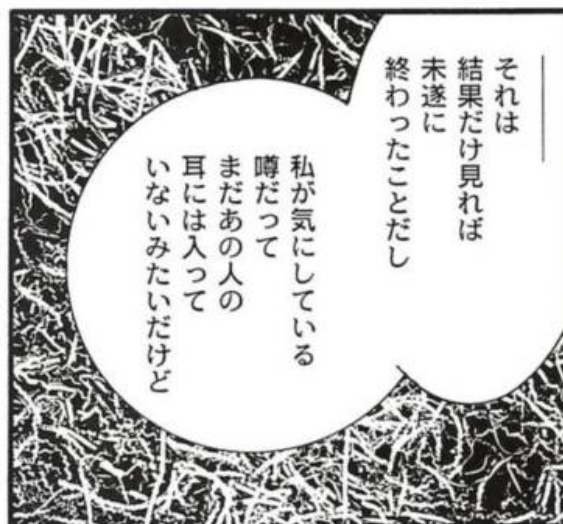
だから少しだけ
間かせて欲しい



君の好きな人のことと
君自身のこと・・・



知られたら
決めなくちゃ
いけないから



それは
結果だけ見れば
未遂に
終わったことだし

私が気にしている
噂だって
まだあの人の
耳には入って
いないみたいだけど



私はまだ
強くなんか
なれていない



この好きって気持ちを
どうすればいいのか



だからこそ
怖い――

だん、だん、だん



馬鹿な私は
どっちも怖くて
一步も進めない

こんな思いを
するのなら
自分の気持ちに
気が付かなければ
良かった――

そうすれば
せめて……
この苦しさだけは
無かったんじゃないかと
そんなことも
考えてしまう



拒否されるのも

受け入れられるのも



決められないんだ



だったら
告っちゃえば
良いと思うよ

え？

大丈夫
振られても
僕が居るから

僕なら
君の全てを
受け止めて
あげられる



月森



稜時君?



ありや
噂をすれば
待ち人の登場だ

真田せんば...



分かっているとは
思うけど
日奈ちゃんのこと
泣かせたら
許さないから

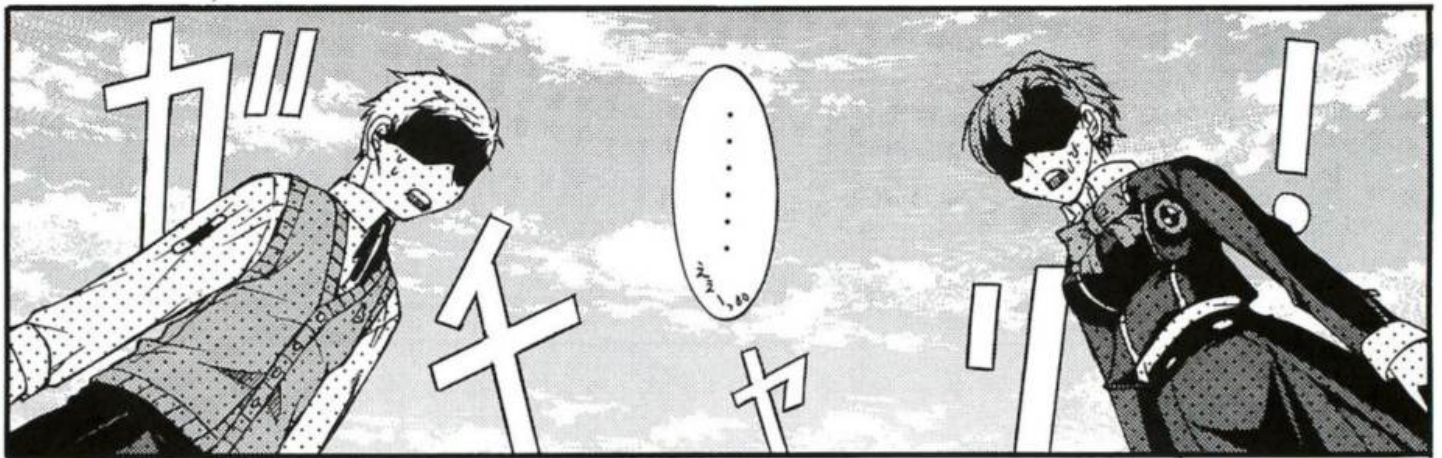


さあて



僕は退散した方が
いいみたいだね

あっそっそっ



震える体
そこから絞り出される声
彼女は小さな体で
精一杯耐えている

俺は月森の何を見ていたんだろう

大事なものを
失うことが
痛かったから
怖かったから
見ないふり
気が付かないふりを
していた

そして私の
こんな姿は
忘れてください

もう少し…

もう少ししたら
きつと
大丈夫になるから
それまでは—

…行って…帰って…

月森っ

いつもこうだ
お前のこととなると
自分が分からなくなるんだ

この気持ちか
なんだか
お前に分かるか？

その間にこんなにも
彼女は助けを
求めているのに
俺は—

それは—



やっと
分かった

遅くなって
すまない



……
知らなかった

先輩がこんなにも
嘘をつくのが
上手だなんて



嘘なんかじゃない

それは違うっ



ずっと誰かに背中を押ししてもらおうのを待っていた

そうだ

結果として彼女を失うかもしれなかったのに
失いたくないなら
迷ってはいけないのだと



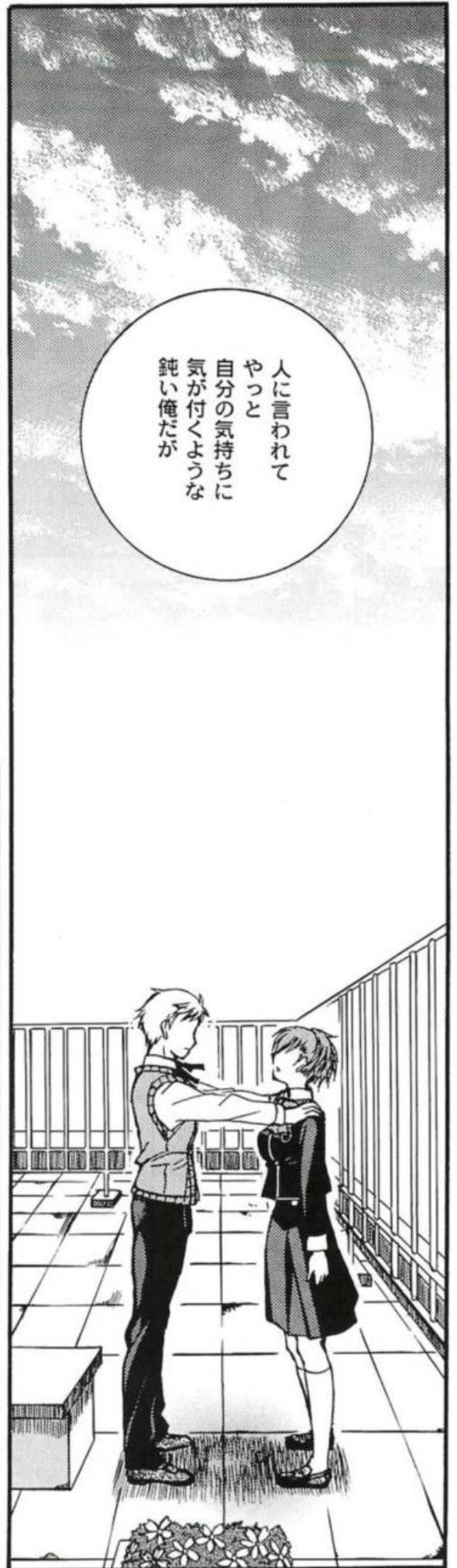
先輩の
その気持ちを
私に

恋だと言って
欲しいのですか

だからこそ
これだけは
ちゃんと伝えたい

俺が――

人に言われて
やっと
自分の気持ちに
気が付くような
鈍い俺だが





真田明彦は
月森日奈を
好きだっことを





でも駄目
——駄目なんです

だって
私は……



気になるのは
噂のことか



馬鹿馬鹿しい
ッッ

俺は気にしないし
むしろ
そんな理由で
拒絶されることが
俺は絶対に嫌だ



ほら
行くぞ

ちよっ
先輩??



その胸に
飛び込んでいくことしか
出来ないじゃないですか

ずるい……
ずるいですよ

真田先輩に
そんなことを
言われたら





これから
お前を抱くんだ



荒療治



そうすれば
俺の言葉が
本気だつてことが



簡単に
分かるだろ



俺のものに
なってくれ

—せんばいっ—



だから今から
証明するんだよ

俺の気持ちと
覚悟を——だ

ヒッ

えっと、ハハ、
先輩これって
どういう意味
なんでしよう？

とく—

フタフタフタ



荒垣先輩の言った通り— 私たちが似ている... だから煮かれた

びしょ

先輩も怖いのか？ 私に拒絶されることを恐れている...

先輩

ああ...私と同じ...

あ—先輩の体が微かに震えている

どうしてそんな私なんか...

私をあなたのものにしてくれますか？



砕けたのは自分の心で怖いのは

砕けた欠片が戻らず変わってしまうこと



誰かに拒絶されるのが怖くて何もかも受け入れているつもりで本当は流していた

ああ...優しくする

そんな中で初めてぶつかった自分の心



はっ…せんぱっ…



私の体—
どこも変じやない
ですよね？



やっと分かった気がする

ぶつかって
碎ける欠片の意味—

…変なもんか
とても綺麗だ

ちがっつ

聞きたいのは
そういうことじゃなくて
…明彦のバカ

モニッ

モニッ

ピッ

は



こんなに乳首も
立たせているのに？



本当に嫌か？

どうして？



そのくらいじゃなくして



私も...
先輩を
気持ちよく
してあげたい



先輩ってば
ホントに
赤ちゃんみたい





日奈っ

辛いことを
明るく
話さなくては



あ、
あっはっ

ぬっ
ぬっ
ぬっ
ぬっ
ぬっ

んっ
ふあっ



はあ

にゅん

あひび

ぬん



先輩っ

大丈夫
俺はお前の全部を
受け止めるって
決めているから…



大丈夫か？

んふっ…
大丈夫です

はあ

は

んんん

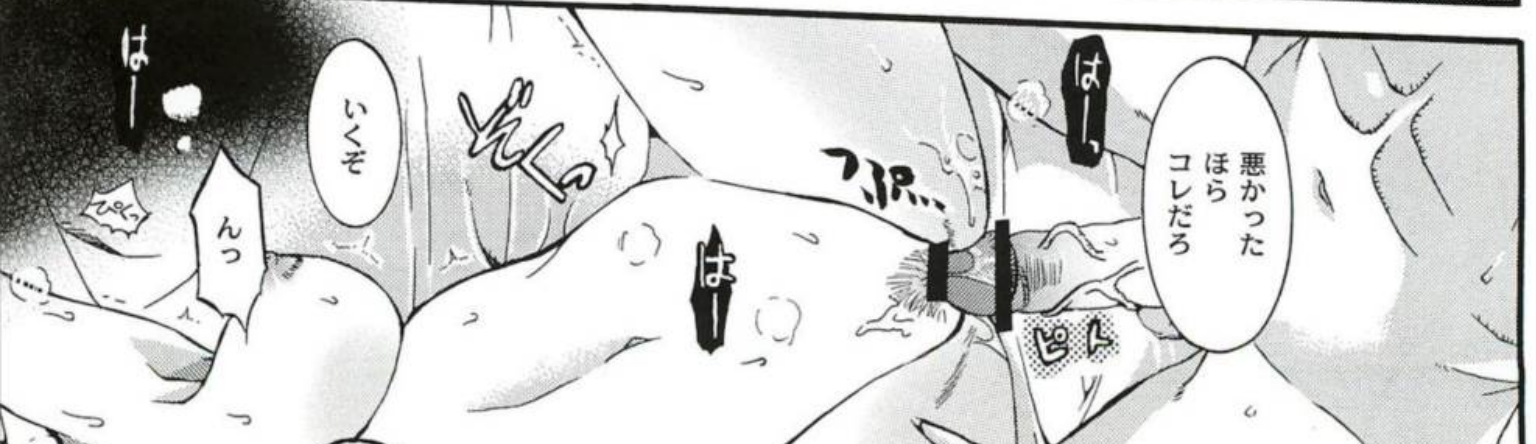
700



んんん



つと…すまんっ







アッ

バカッ
ここまできたら
止められるか

アッ

アッ

アッ

アッ

分かった
こうか?

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ





これは一番上まで
留めないで
駄目かも……



う……
すまない

いいですよ
他の痛い所に
比べれば
コレ位

その……
やっばり
痛いのか？



そりや痛いですよ
ガニ股で歩くって
本当なんですわね



お前を
傷つけるつもりは
なかったんだが
そのなんだ……

すまんっ



別に気にして
いないですよ

だってこれから
ちゃんと責任を
とってくれるんでしょ？



やっとな
笑ったな



だから
お前の笑顔を
見ることが
出来なかった間



俺はお前の
笑っている表情が
好きだ



考えていたんだ

どうすれば
笑ってもらえるのか



こんなに
簡単なこと
だったんだな



今ここで
改めて
誓いたい

ずっとその笑顔を
見たいから



その全てを
俺が守るって

これからは
お前の体や心

だからお前も
俺を守ってくれ

二人一緒に
居続ける為には
俺だけじゃ
駄目なんだ

さんざん
あがいた結果
ここへと
真田先輩のところへ
たどり着けた

私こそ
明彦にお礼を
言いたい・・・

こんな私を
好きになってくれて
ありがとう
そして

やっとそれが
分かった

はい

私は何が
怖かったんだろう

変わることは
悪いことばかり
じゃないって

分かっていたのに
理解していなかった



互いの為に砕いた心の欠片が
それぞれの隙間を
埋めるものへと
変わっていく

私の心の砕けた隙間には
先輩の欠片が
先輩の心の隙間には
私の欠片が・・・

目には見えないけれど
確かにそれはそこにある

そしてそれはやがて
互いを支え合うものへと変わるよ

私も
あなたを守りたい





その時はきっと足音もなく忍び寄ってくる

日奈ちゃん

キーン

フーン

カーン

フーン

校門まで
一緒に帰ろうよ

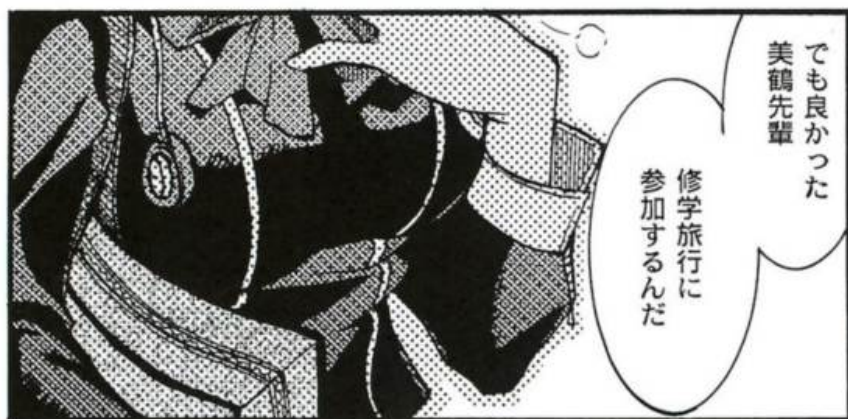
カッ

私立月光館学園

私立月光館学園

一汝、忘れるなかれー

既にその身は捧げられた供物そのものだということを...





向こうでは
僕と一緒に
巡ってくれる？



友達としてならね



あっそうだ
日奈ちゃん

修学旅行
楽しみだねえ

うん



日奈ちゃんは
覚えている？
君に運命を
感じてると
言ったと



えーっ
それは冷たいなあ

あはは



だから
今の君の笑顔が
こんなにも
嬉しい

だけど

日奈ちゃん

キユ



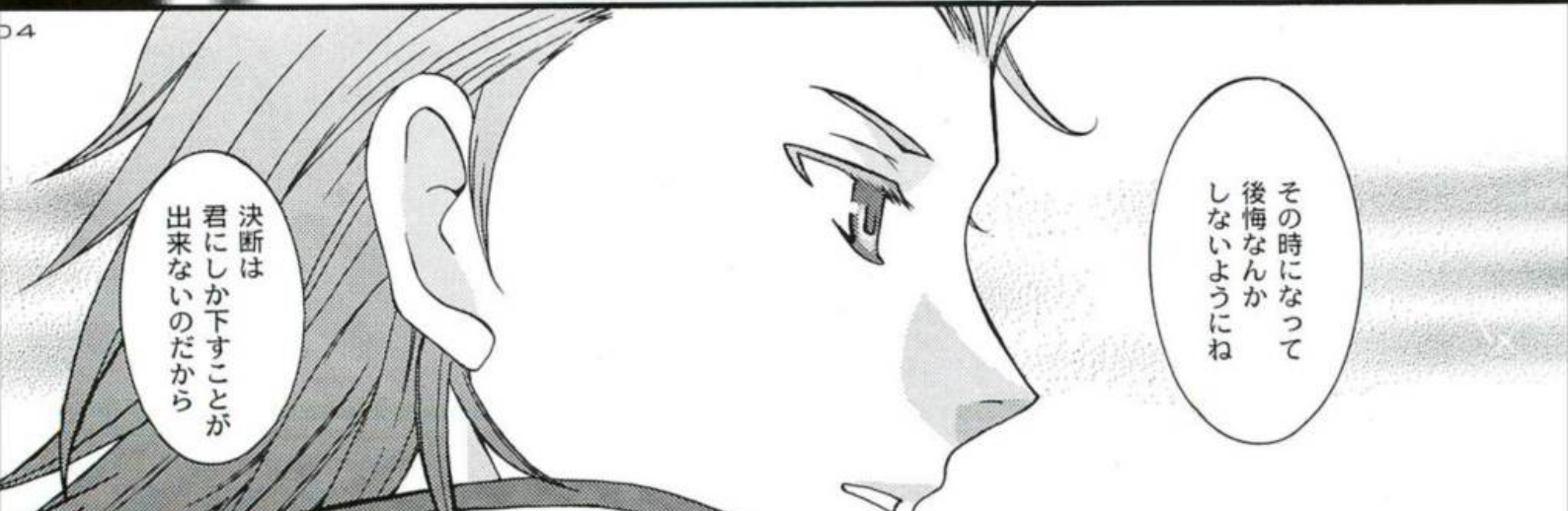
覚えている



でも
気をつけて…

選択の時は
近い

忘れるはずがない…忘れられる筈がない…この対峙したときの感覚は——



その時になって
後悔なんか
しないようにね

決断は
君にしか下すことが
出来ないのだから



ただ…

伝えなきゃ
いけないって
そう思ったんだ



それって
どういう意味？



あつ…約束を
していたんだ

じゃあ
又明日ね



綾時



言葉通りに
受け取って
構わない

実際
僕にもよく
分からない



綾時君っつ



それ以上でも
それ以下でもない



僕は僕だよ



あなたは
…誰？



一瞬——

ファルロスかと

思った…

今はもう逢えない

逢うことの出来ない

まさか

…ね

私の夢の中の友達

さあ——
最後の選択の話をしてよう





“PERSONA 3 PORTABLE” FAN BOOK

SANADA × MISTRESS

PRESENTED BY “TAIYAKIYAKETA”